

共同研究プロジェクト

「個人の思想形成と蔵書の研究 —京都文教大学図書館所蔵の鶴見和子文庫を手がかりとして—」

活動報告

鶴飼 正樹・高石 浩一

本年の研究成果として最初にあげるべきことは、西川祐子・杉本星子編『戦後の生活記録にまなぶ』を、日本図書センターから出版したことである。これは、生活綴方・生活記録運動に長年かかわってこられた、佐藤藤三郎さん、澤井余志郎さんをお招きして、2007年6月に、京都国際交流会館で開催されたシンポジウムの記録を中心にまとめたもので、共同研究メンバーも論文やコラムを執筆している。出版にあたっては、京都文教大学研究成果刊行助成を受けることができた。あらためて感謝したい。

また、メンバーの鶴飼正樹は、鶴見和子文庫未公開資料の中から発見された資料をもとに、「鶴見和子文庫未公開資料から発見された生活綴方文集『私の家』」を本紀要に執筆した。

2008年度からは、科学研究費補助金（基盤研究B 研究代表者・鶴飼正樹）をうけ、「『普通の人の哲学』と『知識人の思想』の葛藤をめぐる戦後思想史—鶴見和子文庫を開く」と題した研究をすすめることになった。この研究は、比較社会学者・鶴見和子の多方面にわたる業績を、戦後思想史の中に位置づけ、さらに日本の戦後思想史をポスト占領状況という視界から再考する試みである。本学専任教員であるプロジェクトのメンバーは、全員この科研の研究分担者でもある。

この結果、科研の研究会がプロジェクトの研究会もかねることになった。実施した研究会は、以下の通りである。

第1回研究会（2008年7月25、26日）

研究計画全体についての討議。鶴見和子文庫の見学。

第2回研究会（2008年11月1、2日）

南方熊楠記念館、南方熊楠顕彰館見学。

第3回研究会（2009年2月14日）

遠藤保子さん（科研連携研究者・立命館大学）報告「鶴見和子の舞踊観—鶴見和子文庫を開く—」

松居竜五さん（科研連携研究者・龍谷大学）報告「鶴見和子の南方熊楠研究—関連資料紹介—」

溝口佳代さん（龍谷大学大学院研究生）報告「鶴見和子の蔵書—デューイの『コモン・フェイス』の分析—」

佐藤知久さん（科研研究分担者・本学）報告「南方熊楠資料見学会についての報告：鶴見和子文庫の今後の整理分類および公開利用方法について」

第4回研究会（2009年2月20日）

埼玉大学共生社会教育研究センター見学。